公開質問状

富良野市長　殿

富良野市政を考える会

私たちは、富良野市民の皆が安心して将来のまちづくりを見通せるよう、常にわかりやすい情報提供と丁寧な説明が必要であると考えております。

現在進められている「次世代エネルギー発電設備」に関しては、多くの市民が関心や不安な思いを持っております。

今までの議会の一般質問への回答や、関係者への説明会では、市民に必要な情報が十分に知らされておいるとはいえず、わからない、判断できない、というのが多くの市民の感想です。

最新の新聞報道では、30メートルという大きな建物の中に化学反応設備、水素を使う発電装置も入れた施設が計画されているとされています。そして、その建物内では、酸性の液体で鉄と化学反応を起こし水素を生成し、発電すると説明があったとのことです。発電した電気は「ほくでん」の送電網に流すとなっています。

昨年の夏、当初公表され、説明されていた、各学校に設置されるコンテナほどの発電装置　という内容とは、大きく離れ、中規模の化学反応を伴う「発電所」のような計画となっています。これについて、当初のものと同じで、契約については継続しているとしているが、市民目線では、いまや　同じものとは到底感じられないものであります。

そして、9月ごろからは設置場所の協議を始めるとなっています。私たちの住む地域が、設置予定に地になるかもしれないという不安もあり、計画されている「化学反応を伴う発電設備」がどのようなものであるのかの説明を求めます。

またこの「次世代エネルギー設備設置事業」の契約が、どのような経緯で、進んでいるのか、市民生活の向上や、税金の使途、に照らしてどのような役割であるのかについても丁寧な説明が必要です。

報道では、「今後、パネル展示などで説明する考えを示した。候補地が具体的になってきたら近隣の住民への説明会も必要になる」と報道されておりますが、9月から候補地を探すという事にあたり、安全性や、実現性、廃棄物の問題など、市民が不安に思える事や、契約の変化の経緯などの疑問の説明や、議会での質問、答弁などを、これ以上待っていては、間に合わないと判断いたしました。

市民の不安な声も大きくなっている事から早急に確認が必要と考えます。

そこで、市民へ、必要な情報を共有していただきたく、以下の点について、公開質問という形で、お伺い申し上げます。

質問事項

①2024年3月の公募で提案され、契約に繋がった、水素発生方式は、「実現可能な安定的な技術」だと説明されていたにもかかわらず、実験をしてみると事業性が無いという事で、実現できなくなった。
なぜできないのかについて、詳細な結果、理由の公表、説明を求める。
または、公表する時期を明確にしてほしい。

②令和７年８月５日の議員協議会の説明では、鉄を強酸性の液体で溶かして、水素を作るという別の方法が提案されたと新聞報道されている。また、これから反応後の液体のリサイクル等の実証実験などを続ける一方、9，１０月ころから設置場所の協議をするというスケジュールと説明されたとなっているが、それらの実用性の実証実験の結果はいつ頃出るのか。

③もし結果が芳しくない（リサイクルできず、コスト削減できないなど）、事業に支障が出た場合、工期や今後の見通しはどのようになるのか。またその代替案はあるのか。

④鉄を用いた場合のCO２削減率については「６０パーセント以上可能」との説明がある。（市議会本会議議事録）しかし、鉄の生産時、輸送時、酸性溶液の生産時、廃液プラント運転時など発電の瞬間以外で多くのCO2が発生する。ゼロカーボンを謳う上で、これらを含めて十分に見積もった技術的な裏付けはあるのか。

⑤発電開始まで最大１年半にわたり、総額７０００万円以上の電気を相手企業から供給を受け続ける。この間に企業側に採算が合わない可能性もあり、途中で撤退するリスクも否定できない。市はこうしたリスクをどのように把握しているのか。

⑥世界初とされる３５m×15m規模の化学反応を伴う発電設備について、建設予定地の見通しはあるのか。プラントの図面が存在するならば、建設費用の見積もりがあるはずである。なぜ市民に示されていないのか。また、建設本体だけでなく、道路整備、送電設備、追加インフラ整備など、関連費用はどの程度になるのか。

⑦昨今、工事費や材料費の高騰が続いている中で、１８年間で９億５０００万円のリース料の中には、エアコン代、発電の材料代、輸送費、などが含まれる。発電施設の建設費やその他の設備費を鑑みて、賄えるような金額であるのか。経済的な合理性がある契約であると考えるか。

⑧契約内容に「市の都合で事業を継続できない場合１８年間のリース残高と撤去費用を市が負担するとの条項があるとされる。事実確認と具体的な内容を伺いたい。

⑨もし、⑧の条項が有効である場合、住民合意が得られず、建設場所が決まらなかった場合でも、市が残りのリース費用を負担することになるのか。

⑩小中学校空調設備及び次世代エネルギー設備の借り上げ料として、１８年間で総額９億５０００万円とされている。この金額は最初の（プロポーザル）公募時から示されているが、金額の根拠や内訳、を明らかにしてもらいたい。

⑪市民への丁寧な説明を行うとされているが、説明会等はいつ頃開催される予定なのか。

⑫フソウエナジー社による次世代エネルギー設備の今後の計画、スケジュールについて、市民にも理解できる形で文書化し、配布する考えはあるのか。

⑬現在は教育委員会が担当となっているが、ゼロカーボン事業の、発電施設の建設という事で、市長、市執行部局で担うべき事項ではないか。担当部局の整理はどうなっているのか。

⑭市内の４校についてはこのように全教室へのエアコンの設置をしたが、その他の学校、特に小規模校には、いまだ避難的に使える部屋をいくつか作っているのみで、スポットクーラーや扇風機でしのいでいる。どの子供にも公平に学習の機会が与えられるべきであるが、現状そうなっていない。不公平ではないか。小規模校にエアコンの整備はしないのか。

上記の点については、市民が安心して将来を考えるうえで不可欠な情報であると考えます。どうか速やかに、各項目についてご回答いただき、市民に対して丁寧でわかりやすい説明と情報公開を徹底されるように強くお願い申し上げます。

回答期限につきましては、９月30日までに文章にてご回答頂きたいと存じます。
回答ができましたら当会事務局までご連絡ください。

またこの回答につきましては、市民へ文書及びデータで全文公開させていただきます。
その際、紙面の都合で、要点のみとなる場合がありますのでご了承ください。

令和７年９月10日

富良野市政を考える会
会長　内海　慶則
千葉　克義
泉　憲敏
田中　久仁子
若杉　澄江
角瀬　千夏

事務局　（内海）
富良野市 [redacted]
TEL・FAX [redacted]